

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」福島校			
○保護者評価実施期間	2025年11月20日 ～ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 10日 ～ 2025年 12月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 8日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「クラ・ゼミ」の療育を楽しみにしてくれるお子さんが多いです。	いろいろな気持ちで学校やご家庭から来られているので、楽しく療育内容を取り入れながら、うれしく満足できる活動を大切にしています。	いろいろな角度からいろいろな療育を進めていき、自分でできる範囲を広げていけるように、支援していきます。
2	いろいろな相談を受けて、保護者様と「クラ・ゼミ」で共有しています。	保護者様や関係機関との連携を大切にしてい、必要なときに相談に乗れるように職員全体で対応しています。	学校での出来事などいろいろな課題に素早く対応していきます。
3	「クラ・ゼミ」での療育が利用児に取って、いつも楽しい、安全な場所になっています。	本児のその日の体調や気分に応じて、療育の量や時間を調節して、意欲を持って取り組んでいます。	職員が1人1人の利用児の支援時の状態を把握して、ベストの支援を整えていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間での交流（ママカフェ）や研修会などの機械がないです。	コロナやインフルエンザなどの感染症があり、なかなか保護者間で集まる機会を持てなかったです。個別の支援や相談に対応していました。	個別支援や個別相談が中心で対応していったので、今後は横のつながりや集団でのイベントなどを増やしていきます。
2	支援前後の打ち合わせが行えていたましたが、もう少し時間を取っていきたいです。	支援のための教材作りや支援準備に時間を取られていまって、打ち合わせの時間が取りにくい状態です。	仕事にメリハリをつけて、時間配分をおこなうことによって、しっかりとした打ち合わせの時間を確保していきます。
3	各利用児さんの療育時間のしっかりとした確保をしてきます。	支援のフィードバックの時間に療育について保護者様を詳しく話をしている、おしてことがあります。	「クラ・ゼミ」での支援時間は1時間と少ないので、楽しみながら保護者様には的確にお話をしていく中で、時間の確保をしていきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」福島校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 12

回収数 8

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8					気持ちよく過ごしていただけるように、毎日しっかり清掃をしたり、整理整頓を心がけています。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8				いつも興味のあるものを使った活動をしてくださっています。	作業療法士や公認心理士、保育士など専門性の高い職員を配置しています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8					いろいろな課題を作成して、取り組んでいただいています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	3	2	外部との交流はないが、今のところは必要はないです。	こども園や保育園などの利用児の情報共有はあります。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1	1	1	はつけんラボがあり、療育の情報共有ができます。研修会をやってほしいです。	相談やいろいろな療育の情報を研修会やママカフェなどで行っています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	8				いつも相談に乗ってくださり、とても心強いです。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8				支援の間だけでなく、普段のこどもの様子もよく聞いてくださり、助言をいただいています。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	2	4		きょうだい同士の交流する機会を取っています。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	1				相談には素早く対応して、必要に応じて相談員さんや学校の先生とお話をする時間を取っています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7			1		事後防止マニュアル・防犯マニュアルなど作成されていて、避難訓練などが実施されています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6		1	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8					「クラ・ゼミ」での活動で楽しく取り組む中で、リラックスしながら進めることで安心感につながっています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8				通うことを楽しみにしていることを、よく母親にお話をしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	8				その都度相談に対応していただき方向性が見えるので、とても助かります。	今後も学校などの相談に対応していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」福島校					公表日			20256年 2月 14日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点						
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○									
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		足りていない部分はありますが、職員間で連携して取り組んでいます。	十分な職員の配置を整えていきます。						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○									
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		気持ち良く利用できるように、毎日清掃して整理整頓をしています。							
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		基本が個別支援なので、各部屋に分かれて支援しています。							
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○									
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表や日頃の保護者様とお話を通して、業務改善を行っています。							
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		申し送りや定期的な 1 ON1 などを行い、いろいろな職員の考えや思いをしっかりと聞いて、業務にお互い活かしています。							
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第3者による外部評価はありませんが、保護者様や職員が事業所評価などを行い、毎年校舎のホームページに載せています。							
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修や事例検討会などを「クラ・ゼミ」で行っています。必要に応じて外部研修にも参加しています。							
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○									
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		年に一度はアセスメントを更新して必要な情報を共有しています。							
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○									
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画に沿って療育の支援を行っています。							
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○									
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		いろいろな支援をおこないながら、具体的な支援内容を保護者様とお話のフィードバックなどで確認しながら進めています。							
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○									

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもの現在の状況に合わせて、個別の5領域の個別支援計画を作成して、必要に応じて集団支援も行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			支援前後に利用児や保護者様の意見や状況を確認しながら、支援を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容をしっかり記録して、次の支援に活かしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		3月までに必要な資料を用意して情報を整えています。また、保護者様の要望に沿って、4月以降に学校に行き情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	「クラ・ゼミ」福島校での状況を園などに共有しています。	認定こども園や保育園の先生との交流はありますが、活動に参加することがないので、今後参加できる機会を整えています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後、家族等の参加できる研修やママカフェなどを実施していきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約のときに1つ1つ丁寧に保護者様に説明しています。また、運営規程の変更時にも保護者様にお知らせしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者様に内容の説明を行い、同意をいただいています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者様からの相談に対応して、面接を中心に必要な助言をおこなったり、学校の保護者面談に対応しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	きょうだい同士で交流できる支援を実施しています。	今後、保護者様同士で交流できる機会を増やしていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いには十分に注意して、おこさまの基本情報などは書庫にしまい、カギをかけています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		今年は大学生に「クラ・ゼミ」福島校に来ていただき、療育について知っていただく機会を持つことができています。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーや薬については利用児の安全に関わることなので、医師の指示書などに基づいてその都度対応しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の内部研修をおこなったり、外部の虐待防止研修に参加しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			